

## サクラバハノキの保全

下部調整池内には、サクラバハノキの群落が確認されています。サクラバハノキは、東北地方南部以西の本州と宮崎県に分布しており、開発により自生地が減少していることから、環境省レッドデータブックにおいて準絶滅危惧種に指定されている貴重な植物です。

下部調整池内において確認されたサクラバハノキは、学識経験者の指導、助言を得て関係行政機関と協議しながら以下の保全対策を実施しています。

- 下部調整池内低標高部のサクラバハノキについては、貯水の影響を受けることも考えられるため、下部調整池内高標高部に群落を再生します。
- 群落再生は、遺伝的多様性に配慮しながら種子及び挿木から育成した苗木と下部調整池内の群落から採取した一部の自生木を用いて行います。
- 下部調整池内に残存するサクラバハノキは、貯水後も生育する可能性があることから、特別な保全対策は行わないことにしています。



サクラバハノキ移植状況

## その他の貴重植物の保全

計画時点の環境調査では貴重植物としての位置付けがなかったウバタケニンジン、マルミカンアオイの2種は、工事着工後環境省より発行されたレッドリストにより準絶滅危惧種に指定されたため、学識経験者の指導、助言を得て関係行政機関と協議しながら以下の保全対策を実施しています。

- 下部調整池内において確認されたウバタケニンジン、マルミカンアオイは、貯水の影響を受けない場所に移植しています。
- 移植後のモニタリングにおいて、良好な生育状況を確認しています。



ウバタケニンジン



マルミカンアオイ

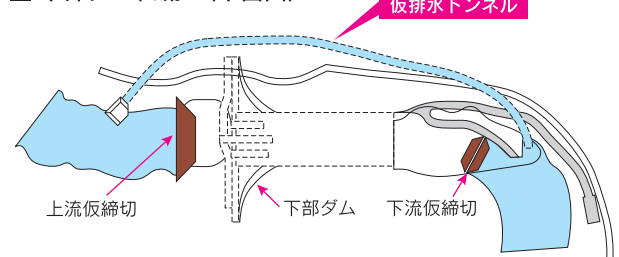
## 3. 水質管理

### (1) 基本方針

工事中の水質は、以下の方針に基づいて管理し、河川の水質の維持に努めています。

- 河川水が直接掘削土石などと接触するおそれのある工事区域については、仮排水路により河川を転流させ河川の濁りを防止しています。
- 工事現場からの排水は出来るだけ循環させて使用しますが、一部は河川へ放流することになるため、濁水処理設備等を設けて適切に処理しています。

### ■ 下部ダム転流工(平面図)



濁水処理設備

- 濁水処理設備等からの排水は、法令に定められた排水基準を遵守するとともに、表に示す自主排水基準を定めて管理しています。

### ■ 自主排水基準

項目	自主排水基準
水素イオン濃度 (pH)	5.8 ~ 8.6
生物化学的酸素要求量 (BOD)	30mg/L
化学的酸素要求量 (COD)	30mg/L
浮遊物質 (SS)	50mg/L

## (2) 水質モニタリング

水質保全を徹底するため、全ての濁水処理設備及び沈澱池の出口と出口下流の河川内を監視地点として表に示す対象項目について水質測定を行っています。



濁水処理設備出口の採水状況

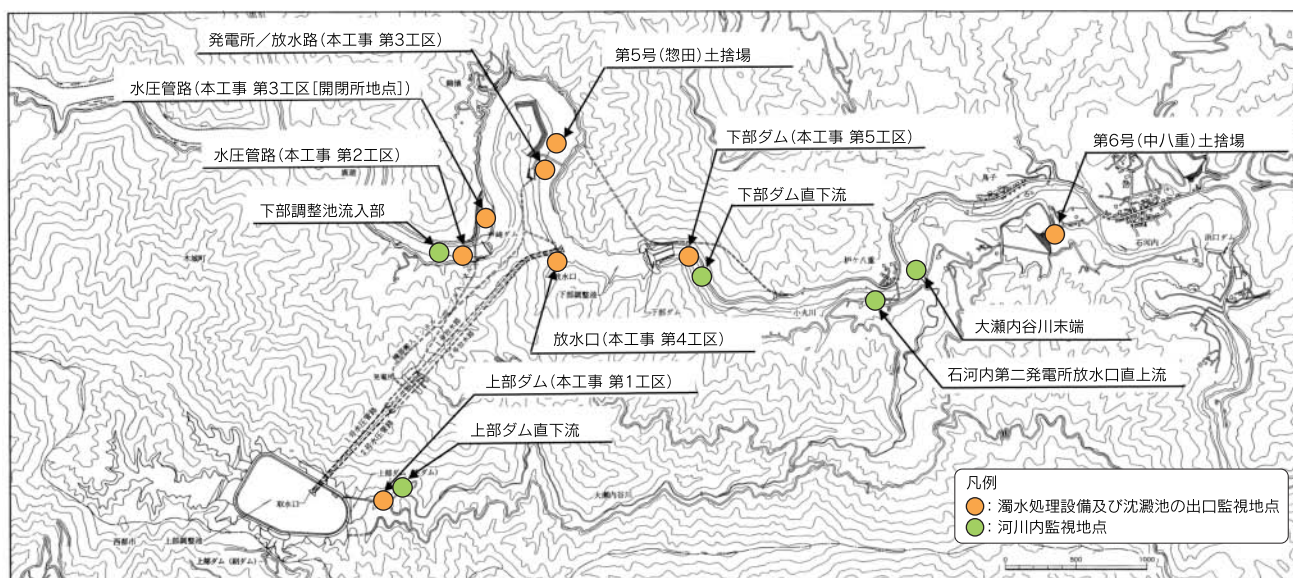


河川の採水状況

### ■ 水質監視地点と対象項目

監視地点	対象項目	頻度
濁水処理設備及び沈澱池出口 工事区域最下流にある濁水 処理設備出口下流の河川	ph, 水温, 濁度	1回/毎日
濁水処理設備及び沈澱池出口 工事区域の最下流の河川内 並びに本流との合流点	生活環境項目 (5項目), 水温, COD, 濁度, 全窒素, 全リン	1回/月
	生活環境項目 (5項目), 健康 項目 (23項目), 水温, COD, 濁度, 全窒素, 全リン	1回/3ヶ月

### ■ 監視地点平面図



## 4. 騒音・振動管理

工事中の騒音・振動を把握するため工事境界線及び工事現場周辺民家地点において自主規制基準値を定め騒音・振動モニタリングを行っています。

1999年2月の工事開始以来、年2回(6,12月)モニタリングを行っていますが、自主規制基準値を上回る値が検出されたことはありません。

工事中の騒音・振動対策として次のような対策を実施しています。



騒音・振動モニタリング状況



製砂設備の防音建屋